

## ニホンジカ捕獲の取組について（小型囲いわなの改良）

三陸中部森林管理署 一般職員 ○太田幸樹  
地域技術官 金田直幸

### 1. はじめに

当署管内には、ニホンジカ（以下、「シカ」という。）が高密度に生息している五葉山があり、昨年度、管内では約3万本（約10ha）の苗木の被害や樹皮剥ぎ等の被害が発生するなど、近年はシカによる農林業被害が拡大する傾向にある。

これを受けて、当署管内では、平成19年度から防鹿柵の設置や忌避剤の散布を行い、新植箇所の苗木の食害対策を行っている。しかし、シカの個体数の減少が見られないうえ、防鹿柵の見回り及び修繕等に要する経費がかかる等の課題があるため、平成28年度から国有林野事業としてニホンジカ被害防除事業を実施してきたほか、平成30年度からは大船渡市内において鳥獣被害対策協定を締結し、地元の猟友会へわなの無償貸出を行うことで、シカの捕獲の支援等を実施してきた。昨年度は、当署管内の国有林内において、貸出したわなでの捕獲頭数を含め、合計137頭のシカを捕獲した。

その中で、当署ではくくりわなは高い捕獲実績をあげているが、囲いわなは課題が多く、あまり実績をあげられていない状況となっている。一方で、囲いわなはクマの錯誤捕獲の危険性が低く、クマの多く生息する地域では、囲いわなでのシカの捕獲が非常に重視されている（表1参照）。そこで、当署では囲いわなによる効果的な捕獲方法を模索するため、平成30年度より囲いわなによる捕獲試験を実施している。

平成30年度の捕獲試験の際には、①わなに入ったシカが天井部から脱走する②わなに入ったシカが首でゲートを持ち上げて脱走しようとする行為が確認される等の課題が見つかった。

今回は上記の課題について、大船渡猟友会とともに対策を検討し、捕獲試験を実施したので、その内容について報告する。

囲いわな	検討項目	くくりわな
少	当署での捕獲実績	多
少	クマの錯誤捕獲	多
低	捕獲確率	高
易	設置の難易	難
少	わなを設置できる場所	多

表1. 捕獲試験地の概要

### 2. 捕獲試験の概要

#### (1) 概要

現在、当署は大船渡市及び大船渡猟友会の三者で鳥獣被害対策協定を締結しており、当協定により猟友会へ貸与をした小型囲いわな2基を用いて捕獲を行った（図1参照）。



図 1. 捕獲試験で使した囲いわな

## (2) 捕獲場所及び期間

捕獲場所の選定にあたっては、大船渡市内で実施することとし、猟友会や市役所等にシカの生息状況等について聞き込みを行った後、林内へセンサーカメラを設置して生息調査を実施した(図 2 参照)。

生息調査の結果、シカの出没が多く見られた 4 箇所で捕獲を行った。捕獲日数は全箇所合計で 258 日間となった。

## (3) 捕獲方法

今回は以下の手順で捕獲を行った(図 3 参照)。

- ①シカをわなに慣れさせるため、約一ヶ月間わなを稼働させずに現地に放置。
- ②誘引餌(ハイキューブ・鉾塩・ふすま)を設置し、半月ほどシカを誘引。
- ③仕掛けをセットしてわなを稼働。

## (4) 囲いわなの改良

平成 30 年度に実施した捕獲試験で見つかった課題を踏まえ、囲いわなへ以下の 2 つの改良を施した(図 4 参照)。

### ① 天井の設置

シカが天井から脱走するのを防ぐため、わなの天井部へ鉄製の格子枠を設置した。材料には市販の鉄格子と鉄筋を使用した。また、クマの錯誤捕獲防止のため、40cm×20cm 程のクマの脱出口を天井へ設けた。

### ②ゲートストッパーの設置

シカがわなの入口の扉を持ち上げて脱走するのを防ぐため、ゲート持ち上げ防止用のストッパーを製作し、わなに設置した。材料には金属片とねじ、釘を使用した。

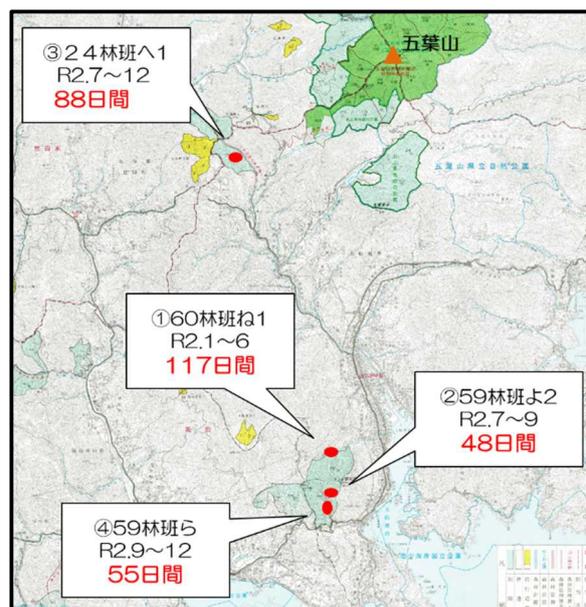


図 2. 捕獲試験地の概要



図 3. 捕獲方法の概要

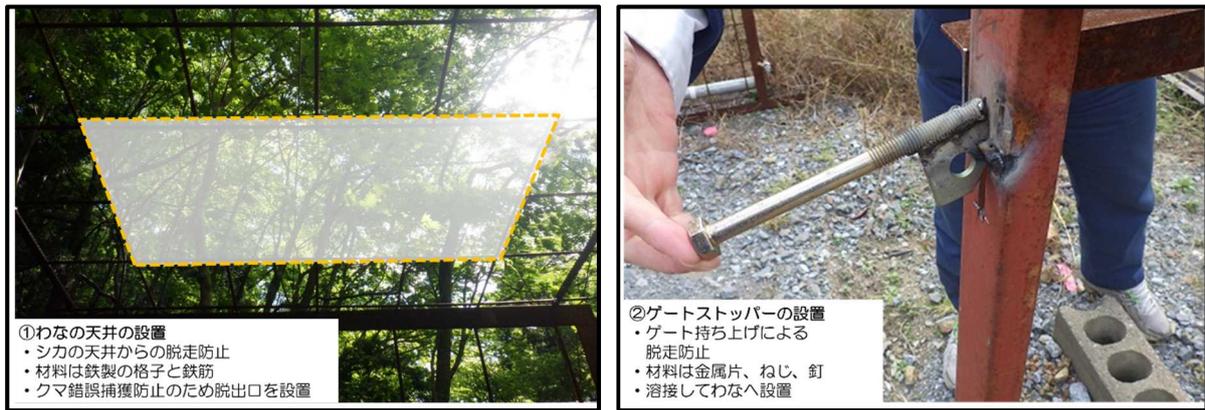


図4. 囲いわなの改良の概要

### 3. 結果

#### (1) 捕獲試験の結果

計4頭の捕獲となった一方、計5回のシカの脱走を許すこととなった(図5参照)。

捕獲効率(捕獲の効率を客観的に示す指標、捕獲頭数÷捕獲日数で算出。)は0.0155頭/日で、平成30年度に実施した捕獲試験の0.0122頭/日とあまり変わらず、効率良くシカの捕獲ができたとは言えない結果となった。



図5. 捕獲試験地の結果

#### (2) 囲いわなの改良

##### ①天井の設置

わなにかかったシカに破壊される等、一部課題が見られたものの(図6参照)、番線により天井の補強を行う等対策を講じてからは(図7参照)、再度天井を壊されることはなかったため、本改良は一定の効果があった。

##### ②ゲートストッパーの設置

シカが扉を持ち上げようとする行為は見られたものの、今回は入口からの脱走は無かったため、本改良は効果があった。



図6. 破壊された天井

#### 4. 新たに見つかった課題と対策

##### (1) 仕掛けの作動不良

当署では、四国森林管理局が作成している「囲いわな設置マニュアル」に記載のネズミ捕りとワイヤーを用いた仕掛けを使用しているが、仕掛けのネズミ捕りが作動不良を起こし、入口の扉が閉まらずにシカの脱走を許すという課題が見つかった（図8参照）。

今回シカが脱走した5回中3回がこの仕掛けの作動不良によるものであった。

今後は、仕掛けの作動不良が無くなるよう改良を行う、またはセッティングが簡易な他の仕掛けを新たに導入する必要がある。

##### (2) ゲート下部への歯止めの設置

入口の扉が床下まで下がってしまうというわなの仕様により、わなにかかったシカが暴れてわなを持ち上げた際に、扉が床下まで下がり、入口に生じた隙間からシカが脱走するという事態が発生した（図9参照）。

今後は、扉の下部へ歯止めとなるストッパーを設置し、扉が床下まで下がることの無いよう対策を講じる必要がある。



図7. 補強した天井の様子



図8. 仕掛けの作動不良



図9. 小鹿用わなからの脱走

##### (3) シカの警戒心の上昇

長期間続けてわなの設置を行っていた箇所では、シカの出没頻度が減少する傾向が見られた。

実際に、③の箇所では、8月のシカの撮影頻度が0.677頭/日であったのに対し、2ヶ月後の10月の撮影頻度は0.484頭/日となった。また、④の箇所では、10月の撮影頻度が0.806頭/日であったのに対し、2ヶ月後の12月の撮影頻度は0.556頭/日となった（図10参照）。

この原因として、長期間の捕獲や見回りにより、わなの周辺に人間の匂い等がつくことにより、シカの警戒心が高まり、出没頻度が減少したのではないかと推測した。

この対策としては、わなの移動を定期的に行い、一つの箇所での長期にわたるわなの設置を避ける、わなにできるだけ接近せず見回りを実施する等、シカの警戒心を高

めず捕獲を行う方法を検討していく必要がある。



図 10. シカの出没頻度の変化

## 5. まとめ

今回実施した囲いわなへの天井及びゲートストッパーの設置等シカの脱走対策は一定の効果があった。一方で、前回の捕獲試験と比較して捕獲効率の改善が見られなかったことや、仕掛けの作動不良をはじめとした新たな課題が見つかるなど、現状では今回実施した対策ではまだ不十分であると考えられる。

そのため、今回新たに見つかった課題等を踏まえ、今後更なるわなの改良や捕獲試験等を実施し、囲いわなを用いたより効率的な捕獲に取り組むこととする。